学びの風便り

リーディングスクール通信 38　　R7.2.15

発行：松本市教育委員会　教育研修センター

令和６年度　リーディングスクール・フェス

１月２８日（火）、令和６年度「リーディングスクール・フェス」が開催されました。当日は松本市内の小中学校の先生方、教育委員会関係者、議員さんなど、約 130 名が参加、「子どもが主人公」の学校づくり・学びの改革に取り組んでいる 19 校の実践アウトプット・セッション、そして岩瀬直樹先生（軽井沢風越学園校長、リーディングスクール・アドバイザー）のワークショップを通して、豊かに交流し、学び合いました。

参加者みんなが「学びの主体者！」 実践校アウトプット・セッション

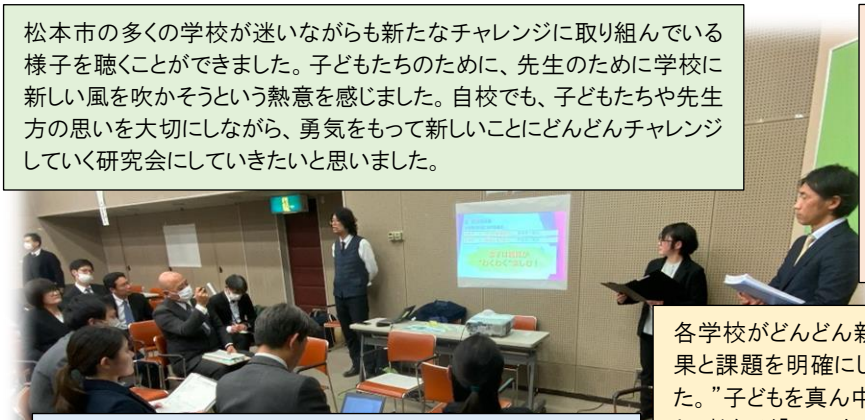
フェスの前半は、リーディングスクール、学びの改革パイオニア校 19 校が各ブースに分かれ、１年間の取組の「アウトプット・セッション」を行います。参加者は自由にブースを選び、セッションに参加します。

セッションに先立って、講師の岩瀬先生から参加者の全員に次のような「投げかけ」がありました。

「今日のフェスを、各校の実践に学ぶだけではなく、『アウトプットとフィードバック』の意義について、参加者全員で学ぶ機会にしたいと思います。そこでセッションでは参加者のみなさんに次の3つをお願いします。『①各校のアウトプットに対してできるだけ多く付箋にフィードバックを残す』『②いいね！と思ったアウトプットの写真を撮ってくる』『③いいフィードバックができたと思った付箋の写真を撮ってくる』」

各ブースでは、実践校の先生方が熱と工夫のこもったアウトプットをされ、岩瀬先生の「課題」を胸に置いた参加者の皆さんと、豊かに交流し合いました。会場全体が熱気にあふれた２時間になりました。

松本市の多くの学校が迷いながらも新たなチャレンジに取り組んでいる様子を聴くことができました。子どもたちのために、先生のために学校に新しい風を吹かそうという熱意を感じました。自校でも、子どもたちや先生方の思いを大切にしながら、勇気をもって新しいことにどんどんチャレンジしていく研究会にしていきたいと思いました。



急に授業や取り組みの改善をするのではなく、まずは“職員”が探求を理解したり実際に探求したりする取り組みが研究主任をはじめとしてされていることが印象的でした。職員が理解し、重要性を実感しなければ変わっていかないと思いました。多くの学校で魅力的な取り組みがされていてとても勉強になりました。

各学校がどんどん新しいことに挑戦され、学校一丸となって成果と課題を明確にし次の取り組みに活かされていると思いました。”子どもを真ん中に置く”意識がどの学校でも高まっていること、教師が「～べき」から抜け出そうとしていることを強く感じました。先生同士の対話が豊かな学校は、研究の気風が高く、充実した実践をされていると感じました。対話する時間や場面を意図的に増やすこと、”当たり前”、”～べき”を見直すこと、子どもに願う姿・子どもがなりたい姿の明確化と共有を目指していきたいです。

学校でテーマや柱を決め、様々な教育活動をそこへ向けていくことで、学校全体が活性化するとともに、期待したい子どもたちの姿に直結していくことを、各校の実践から感じさせていただきました。自校では、来年度「体力向上」をテーマに研究を進めていく予定でおります。全職員が一丸となり、持続力のある研究体制や研究内容を検討していきたいと気持ちを新たにしました。

大変素晴らしい学びの機会をいただいたことに感謝申し上げます。この会が終わった直後、本校から参加した他の2名の先生方が目を輝かせながら、今後に活かせそうな事柄を熱く語ってくれたことがとても嬉しかったです。これからの学校づくりや研究に役立つ刺激や知識、マインド等を共有できた有意義な時間でした。ありがとうございました。

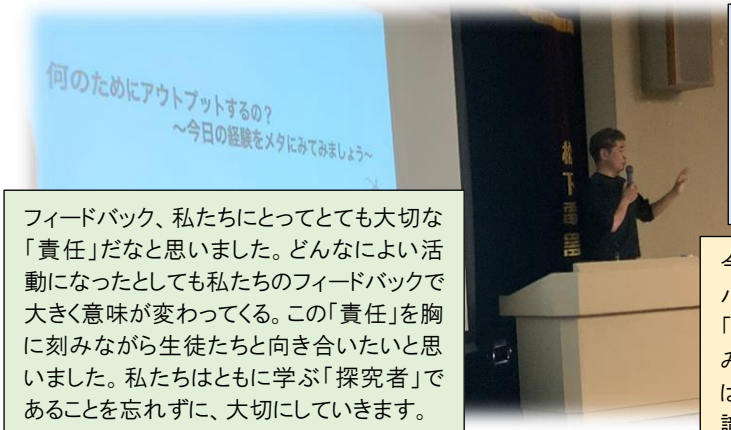
自分のセッションの時には、協議の中で参加された先生方と話すことができ、ありがたかったです。特に、児童の学習カードの様子から、「これはこういうことでは？」など具体的な話ができたことで、様々な視点で教材を見て子ども観を語ることが大切だと改めて感じさせられました。

他校のセッションでは笑顔で「子どもが興味をもつように…」「子どもが自分で動けるように…」という先生方の語りがありました。子どものために、活動されている学校の工夫、どれも勉強させていただきました。

発表をしていただいた学校だけでなく、一緒に参加したすべての先生が関わっていこうとするフェスのあり方に感動しました。学校の教育の場でも、生徒が主体的に関わっていく環境をつくっていくことが大切だと感じたため、学校の先生たちにもそれを伝えていけたらと思います。研究だより等でも、アウトプットとフィードバックを広めていきたいです。

「アウトプットとフィードバック」の意味を問い直す「対話的な学び」

フェスの後半は、ワークショップ「探究を支えるアウトプットとフィードバック」が開かれました。前半のセッションで「アウトプットとフィードバック」を実際に体験し、課題意識を高めてきた参加者の皆さんが、軽井沢風越学園の岩瀬直樹校長先生の導きで「アウトプットとフィードバックの意義・本質」を学び合いました。岩瀬先生の「問い」を４人グループで熱心に協議される学ぶ先生方。対話的かつ協働的に楽しく、深く、学ぶ場となりました。



ついつい言い過ぎてしまう、手を出し過ぎてしまうことがよくあった自分にとって、子どもに委ねる授業、子どもが動き始める授業は目指したいもののなかなかうまくいかずにいたが、フィードバックを正しく行うことが目指す所につながっていることを実感しました。子どもたちの成長マインドセットを育むにはどのような支援が必要なのか、先生方と考えていきたいと思います。

フィードバック、私たちにとってとても大切な「責任」だなと思いました。どんなによい活動になったとしても私たちのフィードバックで大きく意味が変わってくる。この「責任」を胸に刻みながら生徒たちと向き合いたいと思いました。私たちはともに学ぶ「探究者」であることを忘れずに、大切にしていきます。

今日早速、子どもから「先生、見て！」と言われたときに、フィードバックのポイントを意識してみた。これまでの自分だったらすぐに「すごい！」と言ってしまっていたが、今日はさらに子どもに聞いてみることを意識した。さらに子どもの言葉を聞くことで、「すごい」ではないその子への言葉が見えてくるようになったので、今後も意識していきたい。

岩瀬先生が説明くださった「フィードバックの意義」が印象的でした。特に、「改善・成長・前進することを、唯一の目的として」の部分です。これを授業研究会等の場面に置き換えると、単なる批判はフィードバックに当たらないということになります。自校に戻り、この言葉を引用させていただきながら、職員と確認し、建設的な職員集団になるように努めたいと思います。

アウトプットとフィードバックという、全ての教師が日々当たり前に行いつつも、なんとなくやっていることについて、その本質を問うたり、考えたりできる講演会で、非常に学びが多かった。しかも、参加者とアウトプットとフィードバックをしながら、アウトプットとフィードバックについて考えるという、講演会のやり方も面白かった。学習者が何かを気づいたり、学びが実になったりするためには、常にアウトプットを意識しながら、また簡単でもフィードバックを大切にしながらやって行くことが、本質や学びに迫る近道だと感じた。

「アウトプットの大切さ」、「フィードバックの意味の深さ」を学びました。まず、自分がどちらも上手にならなければ、子どもたち『育てる』なんて言えないぁとグサリと来ました。とくに、『フィードバック』のプロになって、相手との信頼関係を築いたり、相手の力になったりすることが出来てくると、教師として（人として）もより生き生きと生活が送れるんだろうなぁとも感じました。日頃からたくさんフィードバックの練習をし、（アウトプットさせていただける環境に感謝しながら）『フィードアタック先生』にならないように戒めて生きて行きたいと思います。とても充実したご講演、楽しかったです！ありがとうございました。

11 月の末から急遽5年生の担任になった。まだ日が浅いこともあり、子どもたちとの間に何か壁のようなものを感じていた。しかし、日々の何気ないやりとりの中で、今回学んだ形のフィードバックをたくさん実践してみたら、俄かに距離が縮まるのを感じた。つまり、日が浅いからではなく、単に努力が足りなかったのだと分かった。教師生活38年になるが、まだまだ学ぶことは多い。

講演を聞く、というスタイルだけではなく、自分でも考えたり、グループの先生と語ったりする時間があり、あっという間の時間でした。子どもたちが授業の中で意欲的になるのもこういうことなんだな、と実感。「自分で関わる」とか「自分から」とか「他者とかかわりながら」とか、授業だけでなく職員間の会議などでも取り入れていけるスタイルであり、やっていくと力がつくかも、と思える講義でした。ありがとうございました。

「相手が変わるフィードバック」という言葉が頭の中に大きく残っています。信頼関係の中で、その時に合ったフィードバックができるよい聞き手になりたいと思いました。子どもたちの学びを支えるために、そして先生達とともに楽しく学び続けるために、とても大切なことだと感じました。岩瀬先生のお話をお聞きして、またわくわくして元気もいただきました。ありがとうございました。

会場が温かな熱気と活気に満ちた、素晴らしい学びの場となりました。参加者の先生方の胸にある「子ども」と「学び」への思いをあらためて感じさせていただきました。このフェスへの素敵なフィードバックもたくさんいただきました。本当にありがとうございました。　　（教育研修センター　大久保和彦）